



●それで、自然エネルギーを使わなくてはならない。日本では、最近自然エネルギーだとかで、風力発電を雨後のタケノコのように付けてますけど、中国のシンキョウのウルムチと言う所では既に、ポランティアから導入した風力発電が、ずーっと並んでいるんです。私も今から二十数年前、サウジアラビアの大学の助教授をやって、アメリカのアリゾナ大学で仕事をしましたが、当時でも、ロサンジェルスなんか遊びに行くといっぱい在るのでびっくりしました。画面の風力発電などはかなりの費用がかかるが、私が内蒙古に行った時に、ぼつんと在るお宅を見たら、日本円で五万円位の外見はちゃちな風力発電機があって、テレビ、冷蔵庫、電話、デッキなどまかなっている。こういうを見ると、日本も小さい国ですから、バカでかいのばかり入れなくても、いいんじゃないかと思えます。

砂漠化対処の人文社会科学的側面

1. 風土を環境的にも、経済的にも魅力的なものとするための政策の実施
2. 住民参加の制度化
3. 人材育成プログラムの実施
4. 女性の自立化支援プログラムの実施
5. 環境・保健教育プログラムの実施

●これは、水と言う物を基本に考えたら良いと言う事。どうやって水の循環を増やすかと言う事を考えるのです。例えば、サウジアラビアでは山を利用して降る雨を増やすのには、海岸にマングローブ等を植えて海水の蒸発を増やしていくと良いのじゃないだろうか。こう言う風な、全体の流れを考えて、何処で何をやるかが大事です。大風呂敷を広げているようですが、水は循環してて、その循環をどうやって無駄の無いようにさせるかが大切です。



●それで、自然科学的な技術なんかはいっぱいあるけど、考えなくてはならないのは、経緯を充分考えて、循環を使うんだよ。在る所だけで取ってはだめだよ。自分が水をほしいからと言って、他の人を困らせちゃいけませんよと言う事。こう言う技術だけで砂漠化が止まるかと言われても、ぜんぜん出来ないですね。というのは、砂漠化の原因は農牧業の人が止むに止まれず引き起こしている問題なんです。そう言う社会的な面から考えてサポートもしないといけな。じゃ、まずは自分の古里は素晴らしいところだよ。子孫に引き継ぎたいよと言う事だな

いと駄目なんです。そのような施策。そして誰が主役か。行政じゃない。外国のボランティア団体でも無い。そこに住んでいる人達が、自ら考え自ら取組むと言う事なんです。技術移転とか支援についても、今どんどん変わって来ています。良く先進国から行って教えてやるとか、人材育成とか、能力形成とか言ってきましたが、今は環境を整えて、解らないようにして、そこに住んでいる人達が、自分の頭で考えて取組めるような環境作りをする。こう言うのが支援だとなっている訳です。全くそうだと思いますね。と言うのは、外国の支援団体がそこからいなくなった後、木を切るから、また砂漠化してしまうのです。自分達がどうやって取組むかと言うことです。それで、その主役になるのは女性と子供達です。

●ここは、中国の内モンゴ、北京の北で河北省です。羊を飼い過ぎたり畑を作り過ぎたりして、かなりひどくなっている。北京への黄砂の原因になっている所です。山には「ここを緑化して環境を守ると言う事は、北京とか天津の環境を守る事につながる」と書き、中国政府・地方政府が皆で頑張ろうと支援をしています。こう言う事も大事です。

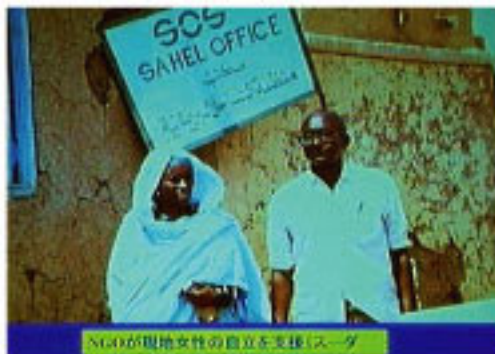


曹家原の緑化は北京と天津の環境を守る(中国河北省)



農民も参加して対策を相談(シリア)

●主役は農民・国民です。ですから、行政はお客さま(農民)のニーズを聞いて、お客さんが必要とする物を提供する事が大事なんです。例えば、かつての研究開発なんかがそうです。良い物を作りますと言って農民達に「これを作りなさい」と押し付けていた。違うんです。農民達が何が欲しいかと言う事を、研究を始める前から一緒になって聞いて一緒に品種改良をする。そう言うのが世界的には主流に成りつつあります。で、品種の選抜も農民にまかせます。研究者は受粉したり、いろんな科学的な事をやりますが、どの品種を残しましょうかと言う時には、農民の考えをよく聞く。と言うのは、ユーザーはそれを糧にした農牧民なんです。研究者はそれに生活が掛かっている訳じゃない。この写真は、シリアの国際機関で、私は日本政府の推薦理事として六、七年目です。非常に感心しているのが、このように農民も含めて良い開発をしています。



NGOが現地女性の自立を支援(スーダ)

●NGOは、リーダーを現地の人に出来るだけ代わってもらっており、代わると外国人達はほとんど見えないように下がる。こう言う事は非常に大事です。



小麦粉を焼いてチャパティを作る(シリア)

●貧困の激しい所は男尊女卑がある。男社会です。偏見を持つてはいけませんが、少なくとも私の歩いた所では、男は楽をして、お茶や煙草を吸って、おしゃべりばかりしてるが、女性は絶えず働いている。男の子には教育をしっかりとやって、女の子には軽るんじてる。黄土高原に最初に入った時、調査で丘陵地帯を昼間歩くと、会うのは女の子ばかりなんです。男の子の教育費は払っても、女の子には払えないから学校に行けないんです。かつては日本もそうだったんです。わたしは、フェミニストじゃないですが、男女共同参画と言っても、まだまだ女性に対する差別が残ってるのじゃないか。女性と言う物は、人類の半分を占める訳です。女性がいないと次の世代の子供たちも出来ない訳です。それを、もう一回考えるんです。そうすると、男ばかりが勉強したってしょうがないのです。女性にも同じように、勉強の機会、経済的な自立するチャンスを与えてやる事が大事なんです。もっと基本的に考えると、男性も女性も経済的な自立が出来るためには、同じ教育を希望する者が受けられ、男と女の違いを尊重しあって役割を分け合い、そして、作り上げて行くと言ったところを、根本的に考えないといけな。私も、乾燥地である中国の奥地、中東、北アフリカと限られた所ですが歩いてみて、女性にもっと焦点を当てた、永い目で見た環境対策をしないと、この砂漠化問題は無くならないと言う印象を持っています。



砂漠化地域の子ども達(スーダン)

●女性が自立して来ると、子供はお母さんと居る方が長いですから、お母さんがしっかりした考え方を持って来ると、子供に対する影響も全然違って来るとです。



母親(お母)を中心に、砂漠化と闘う遊牧民の一家(シリア)

●私が感心したシリアの一家です。右がお母さんで、真ん中にいるのが部族長です。お母さんの影響を受けて過放牧を止めたり、部族にあったものを復活させたりしてます。普通だと、イスラム教徒の遊牧民に、私のような外国人が突然訪ねて行くと、女性は顔を見せないし受入れもしないのですが、このお母さんは開放的でした。それが、皆に影響しているんですね。私は、この一家にお会いした時に、やはり女性が主役にならないと、環境問題ってのは、なかなか難しいかなと思いました。これは決してフェミニストとして言っているのではなく、体験としてです。

砂漠化対策をさらに 前進させるには

1. 先進国が自国の経済発展を最優先しないこと
2. 経済支援の規模について、発展途上国と先進国とが対立しないこと
3. 「現在世代は未来世代の利益を守る」という倫理観を世界が共有すること

● こういう事をやっても、なかなか砂漠化などの環境問題は好転しない。先程、高校生の皆さんが発表されたことと結論は同じなんですけど、まず、アメリカが温暖化防止条約に批准していないのが一番。あれは経済的理由が一番大きい訳なんですけど、先進国がエゴを捨てる事が大事なんです。

● それから二番目に、貧しい所は支援が欲しい訳ですけど、自分が努力しないで援助漬けになること。例えば、アフリカの国なんかに見られる事ですけど、自分達が貧しいのは、かつて貴方達が我々を植民地化したのでこんなに貧しいのだと。それは事実です。だけど、いつまでもそう言って援助をもらうだけの体質では駄目なんです。ですから今、途上国の方も出来る事は自分でやって、援助を受けた物を有効に使うという事が大事なんです。

● 残念ながら私の見てる範囲内では、先進国のお金が上層部にだけ流れて、実際に困っている所には、流れていない。我々、日本にいますと国連は良い仕事してる。でも国連の関係の機関で見たら似たような機関がいっぱいある訳です。それで、例えば PAO という世界食料問題を扱っている機関がありますが、ここに流れているお金の三割から四割は人件費なんです。私は「貴方達の人件費を払うために支援しているのじゃない」と文句を言いました。人件費も普通の給料じゃなくものすごく良くて、退職金・年金も、ものすごく良い。国際援助機関にはこういう問題があるのですね。

● ですから、日本はもっと大声を上げれば良いと思う。日本政府も最近では上げているようす。国連貴族のためにお金を使っている訳じゃないんだから、もっと、監視を強めていく必要があると思います。経済支援について、先進国と途上国が対立しないこと。又、間に入っている国際機関も無駄使いを止め、似たような機関は統合化して合理化すれば良い訳なんです。日本も遅ればせながら、国際機関はまだやってない。世界的にそう言うのを強めないと、本当に困っている人達の所に、我々の浄財百円が届かず、十円届いているかいけないかの現実も全てではないものがあるのです。そう言うケースもあるので、我々が、きちんとウォッチングして、もの申す時は申さなきゃいけない。

● 何の為かという、我々は子孫の為にこの環境を守るんだ。世界に目を向ければ、地球の環境を守るんだと言う倫理観を世界で持つ。これを無くしては先進国や途上国のエゴが出ます。なかなか進まないと思います。ですから、宗教の枠を越えて未来世代の為に限り有る地球資源、環境、風土、故郷をどうするかで取組んで頂ければと思います。

● これを持って私の二年前に辞めた大学教師時代の話が終わらせて頂きます。どうも、ありがとうございました。